

弓削商船高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	校内練習船実習（航海）
科目基礎情報					
科目番号	5A01		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	商船学科		対象学年	5	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	はじめての船上英会話：商船高専海事英語研究会編（海文堂）弓削丸完成図書、実習の手引き、実習ファイル、その他配布書類等				
担当教員	森 瑛太郎,宮本 宝				
到達目標					
航海・機関に関する運航技術の基礎訓練を他の授業の進捗度合いに合わせて行い、船内生活を体験し船舶職員としての資質を涵養し、国際的な船員を目指す。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
航海当直	交通法規を理解し安全かつ合理的な操船が出来ている		航海計器を利用し有効な操船ができています		当直時担当している作業を理解していない
航海計器	航海計器の取扱いを理解し操作できる		航海計器の取扱いを理解し簡単な操作ができる		航海計器の取扱いを理解していない
甲板機器	指揮者として適切な指示を出し、甲板機器の取扱いを理解し操作できる		甲板機器の取扱いを理解し簡単な操作ができる		甲板機器の取扱いを理解していない
学科の到達目標項目との関係					
専門 A2 専門 E1 専門 E2					
教育方法等					
概要	練習船弓削丸を実際に運航し、当直業務等実船同様の運航の中で、稼働している船内機器・設備を通して基本的な原理、使用方法や管理の仕方について実習を行う。 また、班ごとの船内生活を通して環境の適応及び自己管理能力の向上を目指す。 この科目は、商船における操船・機関・運航業務を担当していた教員が、その経験を活かし、航海学と機関学に関する技術について実験実習形式で授業を行う。				
授業の進め方・方法	班ごとに教室課業と船橋課業に分けて実習を行う。 各港間の当直業務、出入港作業等実際の機器を使用した実習を行う。				
注意点	十分に周りの危険に注意を払い緊張感をもって実習に取り組むこと。 危険を伴う実習のため指定された服装を厳守のこと。（学則遵守） 養成施設引当て科目（単位）：航海コース [地文航海(0.1),天文航海(0.1),電波航海(0.1),航海計画(0.1),搜索・救助(0.1)] 免許講習引当て時間：レーダー観測者講習（講義5・実技3）、ARPA講習（講義1・実技3）				
実務経験のある教員による授業科目					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	実習のガイダンス・当直要領	当直法、行き会い法、避航法、夜行海技術の習熟	
		2週	当直要領	当直法、行き会い法、避航法、夜行海技術の習熟	
		3週	当直要領	当直法、行き会い法、避航法、夜行海技術の習熟	
		4週	当直要領	当直法、行き会い法、避航法、夜行海技術の習熟	
		5週	レーダー・ARPAの使用法	適正な使用法を習得する	
		6週	レーダー・ARPAの使用法	適正な使用法を習得する	
		7週	レーダー・ARPAの使用法	適正な使用法を習得する	
		8週	レーダー・ARPAの使用法	適正な使用法を習得する	
	2ndQ	9週	地文航海	各種航法、船位決定法の習熟	
		10週	天文航海	天体による、位置決定法を習得する	
		11週	電波航海	各種電波計器による、船位決定法を習得する	
		12週	船体の構造、設備、復元性等	復元性、トリム等に関する計算法を習得する	
		13週	操船法	操縦性能を理解する	
		14週	搜索及び救助	搜索、救助に関する知識を習得する	
		15週	乗組員の管理、訓練	安全、健康管理、災害防止対策を理解	
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			

		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	小テスト	実技	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	20	40	0	0	100
知識の基本的な理解	40	0	20	0	0	0	60
態度・志向性(人間力)	0	0	0	40	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0